

主 文

本件上告を棄却する。

上告費用は上告人らの負担とする。

理 由

論旨第一点は、原審の証拠の取捨、事実の認定を非難するに帰し、適法な上告理由とは認められない（原審の事実認定は、その挙示の証拠によりこれを肯認しうべく、D証人の供述に関する原審の判示も、これを是認し得ないものではない。）。

同第二点は、違憲をいう点もあるが、結局原審の認定に副わない事実関係を前提として原判決を非難するものであつて、採るを得ない（原審は、本件家屋が上告人の所有ではなく、被上告人の所有であると判示しているのである。）。

よつて、民訴四〇一条、九五条、八九条、九三条に従い、裁判官全員の一致で、主文のとおり判決する。

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	入	江	俊	郎
裁判官	斎	藤	悠	輔
裁判官	高	木	常	七